

乳がん検診を受診されるかたへ

乳がんは 女性のがん死亡数 第4位(2023年統計) がん罹患数 第1位です!(2020年統計)

乳がん検診の有効性

マンモグラフィによる乳がん検診は、乳がんによる死亡率を減少させることができる確実な方法として科学的に認められています。

ただし、がん検診で100%がんが見つかるわけではありません。早期発見のためには継続して検診を受けることが重要です。
※しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、乳頭の湿疹やただれなどの症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

「要精密検査」と判定された場合

検診で、「要精密検査」となった場合は、必ず医療機関を受診してください。

「要精密検査」と判定された方の中で、**がん**と診断されるのは、100人に5～6人です。

多くの方は「がんではなかった」と診断されますが、もしも **がん**だった場合

精密検査を受けないままだと、見つかるはずの**がん**を放置してしまうことになります。

■精密検査の内容:以下のものを組み合わせて実施します。

マンモグラフィ…………… 2方向撮影や拡大撮影などの追加撮影をします。

超音波検査…………… 乳房に超音波をあて、反射してきた超音波を画像として観察します。

穿刺吸引細胞診…………… 疑わしい部位に細い針を刺して、注射器で吸いだした細胞を、顕微鏡で観察します。

針生検…………… 穿刺吸引細胞診よりも太い針を使い、組織を採取します。



自分の乳房を意識して過ごそう!「ブレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)」のすすめ

①自分の乳房の状態を知る

日頃から「自分の乳房の状態を知る」ことがまずブレスト・アウェアネスの第一歩です。

②乳房の変化に気をつける

普段の自分の乳房の状態を知ること、初めて、変化に気が付けます。

③変化に気が付いたらすぐ医師に相談する

しこりやひきつれなどの変化に気付いたら、次の検診を待つことなく病院やクリニックなどの医療機関を受診しましょう。

④40歳になったら、2年に1回乳がん検診を受ける

乳がん検診の目的は、乳がんでなくなる女性を減らすことです。
40歳以上の女性は、2年に1回、定期的に検診を受けましょう。



精密検査の結果について

精密検査の結果は、医療機関から市町村に報告され、検診機関でも共有されます。

(精密検査の結果は、がん検診の精度管理に欠かせない情報であることから、個人情報保護法の例外事項として、個人の同意がなくても市町村や検診機関に提供できるとして認められています。)

千代田町保健センター(総合保健福祉センター内)

「がんは、万が一ではなく二分の一。」 検診で早期発見・早期治療を!

日本では、2人に1人が**がん**になると言われています。また、3人に1人が**がん**で亡くなっています。

がんのミニ知識

がん細胞は大人の体の中で一日に1,000個以上できています。

健康な大人でも「がん細胞」が毎日たくさんできています。しかし、多くの人が健康を保てているのは体の中の「免疫細胞」ががん細胞を見つけ次第、退治しているからです。

ところが、年をとるなどして免疫の働きが低下すると退治しきれないがん細胞がでてきます。こうしたがん細胞が無秩序にどんどん増え続ける状態が「がん」です。1個のがん細胞が1cm程度の塊になるのに10～20年かかります。その後2cm程度の大きさになるにはわずか1～2年です。

がんが見つかるタイミングをのがさないために、定期的な検診を受けましょう。

がん検診の方法

これまでの研究によって、胃がん、大腸がん、肺がん、子宮頸がん、乳がんの5つのがんは、それぞれ特定の方法で行う検診を継続的に受けることで早期に発見でき、さらに治療を行うことで死亡率が低下することが科学的に証明されています。

がん検診	検診方法
胃がん検診	問診および胃エックス線検査(または胃内視鏡検査)
大腸がん検診	問診および便潜血検査
肺がん検診	問診および胸部エックス線検査(+高危険群に対する喀痰細胞診)
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診および内診
乳がん検診	問診および乳房エックス線検査(マンモグラフィ)

がん検診の流れ

